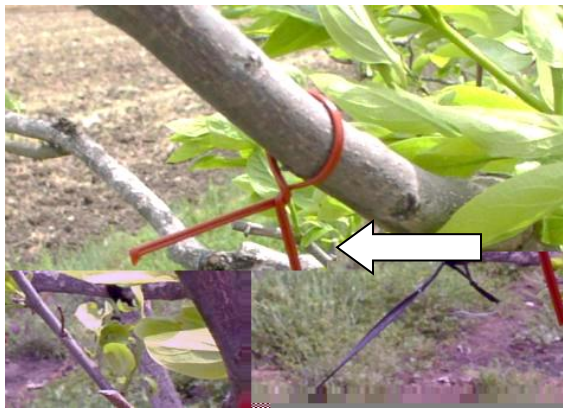


カキノヘタムシガに対する交信かく乱剤を実用化（環境部）

当センターが岐阜大学等と共同開発した性フェロモンを活用した交信かく乱剤「ヘタムシコン®」（信越化学工業株式会社）が、平成25年12月4日に農薬登録され、平成26年春までに販売が開始されます。

カキノヘタムシガは、幼虫が実の中に侵入して食害するため薬剤がかかりにくいというえ、近年は発生が長期化しており、県内で被害が多発しています。この剤を5月上旬に果樹園に取り付けるだけで、長期間安定的に防除することができ、安全・安心なカキの安定生産が可能になります。

なお、平成26年2月に開催いたします当センター成果検討会でこの成果を発表する予定です。



カキに設置した「ヘタムシコン®」(矢印)



果実を加害して落下させるカキノヘタムシガの幼虫

持続的な飼料米栽培を目指して（作物部・環境部）

本県の飼料用米栽培面積は825ha(平成24年度)と近年増加傾向にあります。飼料用米の増産方針が示される中、今後も栽培面積の増加が予想されます。飼料用米に最も求められる特性は「多収」であり、栽培にあたっては、食用米より肥料投入量が多いため、地力低下にも配慮する必要があります。

当センターは、家畜ふん堆肥と化学肥料を合わせて使用することで水田の地力を維持させ、安定的で持続的な飼料用米の栽培法を研究しています。これまでに、籾収量が最大となる窒素施肥量や化学肥料を代替できる家畜ふん堆肥の施用条件について検討しています。



飼料用米(下)と食用米(上)の穂の比較



飼料用米(左)と食用米(右)の玄米の比較

豚ふん堆肥を使用したリサイクル肥料を開発しました (環境部)

朝日工業(株)、JA全農岐阜、当センターと共同で県内の豚ふん堆肥(縦型密閉方式)を原料にしたリサイクル肥料(商品名:「エコレット048」)を開発しました。原料に豚ふん堆肥を約4割使用し、有機態窒素を5割含んだ、側条施肥機にも対応した肥料で、肥料費低減と地域資源活用が期待できます。

4月に肥料の仮登録が認められましたので、販売に向けた準備を進めると共に、水稻の「特別栽培農産物」や「ぎふクリーン農業」での利用に適する肥料として、実用性を検討しています。

当センターの適応性試験で既存肥料と遜色ない成果が得られつつあります。

当肥料は次年度からの販売を予定しています。



開発したリサイクル肥料



側条施肥機での移植

県育成フランネルフラワーの組織培養技術を開発しました (生物機能研究部)

植物の組織培養は、生長点組織を無菌的に分離し、人工的に管理された環境下で培養して完全な植物体を再生する植物バイオテクノロジーの基本技術です。

当センターでは県が開発した特産花き類の組織培養に取り組み、フランネルフラワーの個体再生技術を確立しました。フランネルフラワーの組織培養は、国内に前例がない技術です。

この技術は、品種保護を目的に不稔化した際、栄養繁殖が難しいフランネルフラワーの系統維持や増殖における活用が期待できます。



組織培養によるフランネルフラワーの増殖

岐阜農林高校の校外研修を行いました

岐阜農林高校の園芸科学科1年生(40名)が12月12日、当センターに来所しました。これは岐阜農林高校のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業の一環で「農業の先端的研究」をテーマに校外研修として訪れたものです。

当センターの研究員が、開発した研究成果を交え、センターの業務概要等を説明しました。



★★★平成25年度成果検討会を開催します★★★

日時: 平成26年2月20日(木) 13時30分～

場所: 農業技術センター講堂

※詳細は後日ホームページに掲載いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

岐阜県農業技術センター

〒501-1152 岐阜市又丸729-1

Tel 058(239)3131

<http://www.g-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

南濃試験地

〒503-0651 海津市平原1165

Tel 0584(53)0175

池田試験地

〒503-2407 揖斐郡池田町般若畑631-11 Tel 0585(45)3837